

# 令和6年度子ども文教委員会地方都市行政視察調査報告書(案)

## 1. 視察先及び調査事項

視察日	視察先	調査事項
令和6年 10月29日(火)	広島県	個別最適な学びに関する実証研究について
令和6年 10月30日(水)	広島県 三原市	三原市児童館「ラフラフ」について

## 2. 調査内容

### 広島県

#### 1. 県の概要

広島県は日本の中国地方に位置し、北部を標高1,000メートル以上の山々からなる中国山地、南部を瀬戸内海に囲まれた県であり、大小171の島々を持つ。気候は年間を通じて温暖で、沿岸部は晴天が多く、山間部は比較的降水量が多く、冬季には積雪もある。県庁所在地は沿岸部に位置する広島市で、中国・四国地方最大の都市として政令指定都市に指定されている。県内には、世界遺産に登録されている厳島神社や原爆ドームや、サイクリングロードとして人気の高いしまなみ海道など、豊富な観光資源を有しており、国内外から多くの観光客が訪れる。令和5年5月にはG7広島サミットが開催され、中長期的な外国人観光客の増加やMICEの誘致に結び付くことが期待されている。

面積：8,478 km<sup>2</sup>

人口：2,716,733人 (令和6年10月現在)

世帯数：1,258,514世帯 (令和6年10月現在)

令和6年度一般会計当初予算額：1,095,700,000千円

#### 2. 調査の経過

広島県庁議事堂の議会事務局を訪問し、事業の概要説明を受け、質疑応答を行った。

説明担当： 学びの変革推進部 義務教育指導課 教育指導監

### 3. 主な説明内容

#### (1) 個別最適な学びに関する実証研究

##### ①個別最適な学びに取り組んだ経緯

平成31年度に広島県教育委員会に「個別最適な学び担当」が新設され、個別最適な学びとは何かについて、1年間研究することになった。全国の様々な取り組みを視察したり、有識者から話を聞いたりし、「個別の状況に応じたカリキュラムの編成・実践に関する提案」という形でまとめた。スタート時は、県内のどこの学校でも取り組みができるように、「手引書」という形での作成を試みたが、研究を進めるうちに非常に難しいことを実感し、「提言書」という形での作成を試みた。しかしながら、提言での作成も難しく、学校と教育委員会が一緒に取り組みを考えていこうということで「提案」という形で取りまとめ、県内の各学校に届けた。

##### ②広島県教育の現状分析

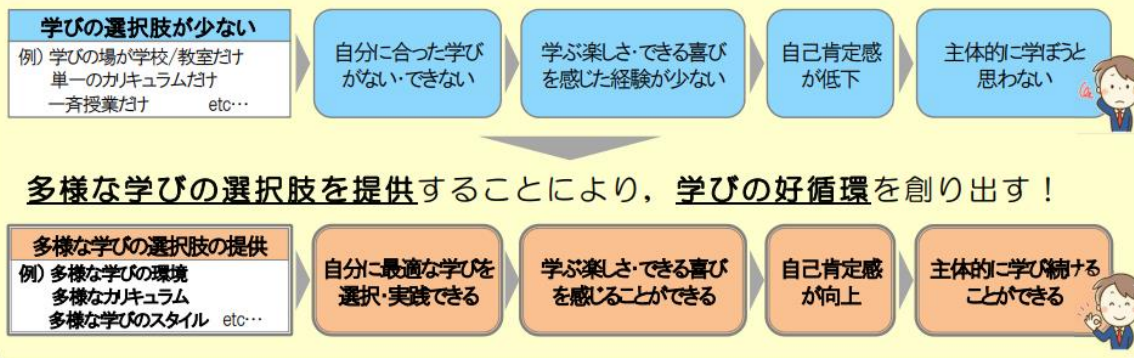
広島県では、平成26年度から「学びの変革」に取り組んでおり、全ての生徒に主体的に学びの実現を目指し、様々な取り組みを実施してきた。その取り組み結果から、主体的な学びが難しい児童が1割程度いることがわかった。その児童の傾向を分析し、主体的な学びを定着させるための仮説をたてた。

#### ◆ 主体的な学びが定着していない児童生徒の傾向

主体的に学ぶことが難しい児童生徒は、自己肯定感が低く、学ぶ楽しさ・できる喜びを感じた経験が少ないという傾向が見られる

#### ◆ 主体的な学びを定着させるための仮説 ～学びの好循環を創り出す～

学びの選択肢が少ないことから、学ぶ楽しさ・できる喜びを感じた経験が少なく、自己肯定感も低いのではないかと？



### ③個別最適な学びについての結論

**目標** 全ての児童生徒が主体的に学び続けることができています

**方法** 児童生徒一人一人の学習進度や能力、関心等に応じて、多様な学びの選択肢を提供すること



**キーワード** 選択肢と自己決定

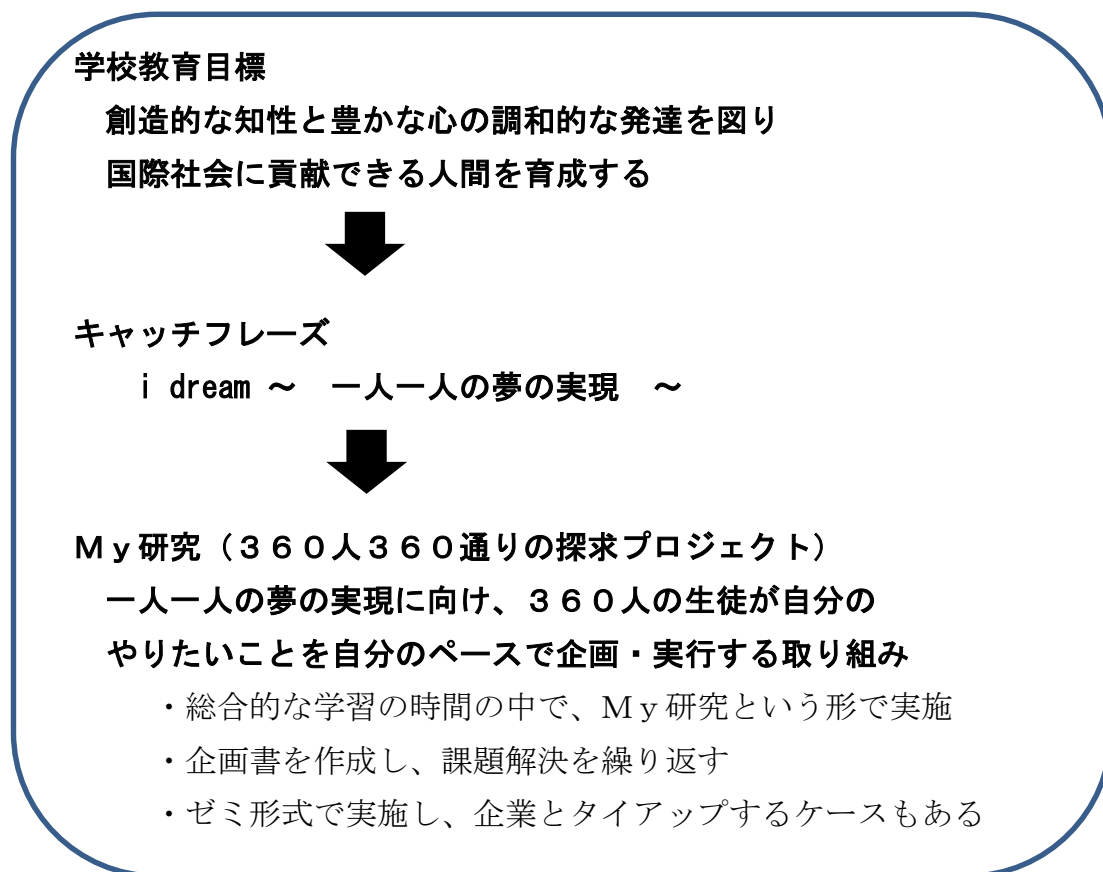
### ④目標を達成するための観点

個別最適な学びに必要な観点	
観 点	内 容（対話のポイント）
① マインドセット	・学びの主体は子供たちであるという「学習者基点」の意識をもって教育活動を行っていますか。
② 学びの環境	・子供たちにとって、安心・安全で居心地のよい、多様な学びの場づくりをしていますか。
③ 学びの内容	・実社会で汎用的に活用・発揮できる概念等の形成を意識した内容になっていますか。 ・学校外の多様な主体と連携・協働し、子供たち自身が当事者意識をもってリアルに探究する内容になっていますか。
④ 学びの進め方	・子供たちの学びの自立化に向けた学習サイクルの定着を意識していますか。 ・一人一人の学習進度や能力、関心に応じた学びの場面を設定していますか。
⑤ 学びの集団	・多様な子供たち同士が関わり合う柔軟性のある集団づくりをしていますか。 ・互いの存在や違いを認め合う、居心地のよい集団になっていますか。
⑥ 学びの評価	・子供たちの学びのプロセスを捉え、肯定的なフィードバックをしていますか。 ・子供たちが学びを振り返る機会を設定し、メタ認知を促進していますか。 ・各学校で育成すべき資質・能力の評価をしていますか。
⑦ 校務支援 チーム学校	・日常的に業務の効率化を意識して実践し、子供たちに向き合う時間を確保していますか。 ・一人一人の学習や生活の状況等を全教職員で共有し、チーム学校として、個に応じた支援をしていますか。

## (2) 個別最適な学びに関する実証研究授業

広島県教育委員会は、県内の市教育委員会と小中学校に対して個別最適な学びに関する提案を行い、実証研究授業の参加校を募集した。希望する小中学校に対して、県教育委員会、市教育委員会が面談を行い参加校を決めた。実証研究授業の実施に当たっては、県教育委員会が学校の中に入りこみ伴走型支援を行いながら、市教育委員会、学校と一緒に取り組みを進めていった。

### ①福山市立福山中学校の取り組み



《具体的な取り組み》

#### ○サン・クレアゼミ（循環型社会づくり）

- ・コンポストの堆肥作りから始め、無農薬の野菜を作る。その野菜を使った料理を製造販売し、打ち上げ金で新しい苗や種を購入する。

#### ○大野ゼミ（書籍出版）

- ・自分たちがMy 研究で取り組んできたことを書籍の一部として執筆す

る。出版された書籍の販売促進イベントを企画し、実施する。

○G o g l o b a lゼミ（平和活動等）

・筆記用具等の不要な物資を集めて、NGO法人と連携しながら平和活動に参加したりする。

②廿日市立宮園小学校の取り組み

目指す姿：自立した学び手を育てる

方法：自由進度学習 多様な選択肢を提供する  
自己決定場面を増やす  
学びの主体は子供たちという意識を持つ

具体的な手立て

学習計画表の充実（学習内容や学習方法の選択）

個への支援の充実（自作のワークシートを作成）

学習環境の工夫（多様な学習コーナーを設置）

4. 主な質疑応答（概要）

問：個別最適な学びの授業をきっかけに、どれくらいの不登校の子が、学校へ通えるようになったか。

答：この取り組みを通じて不登校の子が、通えるようになった事例はまだない。ただ、登校しにくい子が、学校に出ている事例は増えてきている。教室の居心地の良さが、不登校の未然防止につながっていると考えている。

問：My研究や自由進度学習による授業は、非常に効果的な学習方法だと感じた。現在、全体の授業の中の1割程度とのことだが、時間数を増やしたり、他の教科に広げていく考えはないのか。

答：1割程度にしているのは、教材研究など環境整備をするのに時間が、かかるためである。My研究などの授業実施自体が目的ではなく、先生と生徒の関係を柔軟にしていくことが大事であると考えている。1割の授業だが、先生の考え方が変わり、普通授業においても児童に対する接し方が変わっていくという効果がある。

問：普通授業とはやり方が大分違う。反対する保護者はいなかったのか。

- 答：県教育委員会として、全ての学校に強要しているわけではない。児童・生徒の主体的な学びの実現に向けた一つのアプローチ方法として学校や先生に提案している。手上げ方式で、チャレンジしてみたい先生や学校に県教員委員会が伴走する形で実施している。
- 問：取り組んでいる学校とそうでない学校とで差が出てこないのか。
- 答：各学校様々な方法で、主体的な学びに取り組んでいる。
- 問：この取り組みは単に教科の単元を学ぶのでなく、自ら考えて問題を解決する方法を学ぶプログラムなのか。
- 答：学ぶ楽しさを学んでいくプログラムである。
- 問：これまでのカリキュラムでは、なかなか生徒に学ぶことの楽しさ教えることは難しかったが、県教育委員会がこのような取り組みを提案することにより、やり易くなったと思う。そのあたりの効果をどのように感じているか。
- 答：今までの授業は板書など先生がいかにスキルを鍛えていくかが焦点だったが、この授業では、環境を整えれば子どもが自主的に学ぶという考えに基づきやっている。そのため、事前の準備をととても重視している。その事前準備を新人職員とベテラン職員が一緒にやることで、OJTのようなことが自然にできている。
- 問：この学習方法はすべての単元や教科に適しているのか。どのように応用できるのか。
- 答：当初は、体験的に学べる数学や理科が適していると考えていたが、取り組みを始めて5年になり、国語、社会、音楽など他の教科でチャレンジする動きが出てきてる。
- 問：教材研究の準備をする先生の負担は大丈夫なのか。
- 答：継続して実施していくと教材が蓄積されて、準備に時間がかからなくなる。また、一方で教材研究は先生方の本来業務であるし、それが先生方のやりがいであると考えている。
- 問：従来型の授業のやり方に慣れていて、この取り組みになじめない子もいるのでは。
- 答：先生に教えてもらわないと不安を感じる子どもも、1割程度いる。その子たちには、先生方が自立して学ぶことの大切さを教え、個別に対応しフォローしている。
- 問：目指しているゴールはあるのか。
- 答：すべての児童・生徒の主体的な学びの実現がゴールになる。
- 問：県内全ての学校にこの取り組みや、マインドを拡げていくことか。
- 答：その通りである。

## 広島県三原市

### 1. 市の概要

三原市は、広島県の中央東部に位置しており、平成17年3月22日に旧三原市、本郷町、久井町、大和町が合併して誕生した。

市内には、JR山陽新幹線・山陽本線・呉線、山陽自動車道、広島空港、三原港など主要交通が整っており、広島県における交通の要衝となっている。戦国時代の武将小早川隆景が、現在のJR三原駅の位置に、満潮時に城が海に浮かんでいるように見えたことから「浮城」の異名を持つ三原城を築城し、その後、周辺は城下町・軍港として発展した。

面積：471 km<sup>2</sup>

人口：87,194人（令和6年10月現在）

世帯数：43,543世帯（令和6年10月現在）

令和6年度一般会計当初予算額：52,052,000千円

### 2. 調査の経過

福三原市児童館「ラフラフ」を訪問し、事業の概要説明を受け、質疑応答を行った。

説明担当：こども部 子育て支援課 企画係長  
三原市児童館「ラフラフ」職員

### 3. 説明内容

#### (1) 児童館「ラフラフ」の施設概要

市内唯一の児童館で、令和2年8月に、市内の別の場所から移転し、オープン

##### 【特徴】

- ①中高生と一緒に作った児童館
- ②施設を利用する子どもたちや保護者が運営に関わっている

##### 【移転理由】

- ・公共施設マネジメント（施設の老朽化・耐震化、公共施設の再編）
- ・中心市街地の賑わい創出、子育て支援の充実

##### 【施設概要】

■所在地 広島県三島市城町1丁目2番1号



ペアシティ三原西館 2F

■開館時間 10時～19時

■休館日 毎週火曜日、お盆、年末年始

【職員体制】会計年度任用職員 6人

※うち1人は、ファミリー・サポート・センター  
アドバイザー

(2) 児童館「ラフラフ」の整備

～中高生と三原市が「一緒に」児童館をつくった～

☆施設整備の考え方

■移転前の児童館の課題

18歳まで利用できるのに、中高生の利用が少ない

※平成31年度の中高生利用者は、1日平均1.3人(全体の3%)



■だから新しい児童館は・・・

○中高生も気軽に遊びに来れる場所

○中高生が活躍できる場所

○家、学校以外の第3の居場所にしたい



■そのため

中高生の意見を聞いて一緒につくることにした！

☆「新児童館ティーンズ検討委員会」の立ち上げ(平成31年2月)

■新児童館をプロデュースする中高生を募集

募集方法

・企画案を作成し、教育委員会に説明



- ・学校長あてに依頼し、学校を通じて募集

■月1回程度のミーティングを開催（計10回）

【ミーティング内容】

- ・移転前の児童館の見学
- ・移転場所とその周辺の見学
- ・中高生の利用を増やすための施設機能の検討
- ・新児童館で実施したいイベントの検討など
- ・新児童館レイアウトへの意見聴取
- ・新児童館レイアウトの最終報告
- ・新児童館のネーミング検討、選考 等

(3) 児童館「ラフラフ」の運営

■運営方針（めざす姿）

- 全ての子どもと保護者がいつでも気軽に利用できる場
- 子ども年齢に応じた様々な「遊び」や「体験」を提供できる場
- 保護者や子ども同士、また、世代を超えた交流ができる場
- 子どもに関わる関係機関と連携し、地域社会全体で子育てを支援する拠点

■ラフラフティーンズスタッフ

- ・新児童館を検討していた「新児童館ティーンズ検討委員会」を新たに「ラフラフティーンズスタッフ」とし、児童館事業の運営・企画に参加
- ・放課後や休日に集まり、イベントの企画や子どもの保護者と交流するなどボランティアスタッフとして活動
- ・メンバー 52人（令和6年10月現在）  
中学生9人（市内外4校）  
高校生44人（市内外9校）

■中高生企画イベントの一例

- ラフラフ teen 塾
  - ・小学生が持参したわからないことを中高生がサポート
  - ・月1回開催の定番イベント
- ラフラフ teen 塾（発展編）
  - ・自然現象などを手作りの資料を使い小学生に授業形式で解説

- (例) ・海はなぜ青い？  
・お風呂に入ると指がしわしわになるのは、なぜ？  
・科学実験

- (例) ・1色のマジックから複数の色を取り出す  
・中学・高校生活の体験談や将来の夢などについて語る

■その他の「ラフラフ」で活躍するグループ

中学生の活躍に刺激を受けた小学生や大学生、保護者なども加わり  
世代を超えて活動中

赤ちゃんスタッフ 0～3歳児の保護者 33組

きっずスタッフ 小学3～6年生 27名

ユニスタッフ 大学生（県立広島大学三原キャンパス）125名

サポーターズ 保護者、ティーンズスタッフ卒業生、民生委員、  
児童委員ほか

■愛称「ラフラフ」の由来

笑う（laugh）と気軽な・気楽な・自然な（ラフな）を合わせた言葉

#### 4. 主な質疑応答（概要）

問：この児童館は、高校生と幼児など小さなお子さんが利用している。

高校生が、小さいお子さんをいじめたりすることはないのか。

答：いじめなどはない。高校生の男子が集まっていると、小さい子のお母さんが、少し眉をひそめるシーンは見受けられるが、児童館職員が話題をつないで、うまく橋渡しをしている。

問：夏休みなど利用者が集中する場合があると思うが、混まないように何か工夫をしているのか。

答：夏休みなど確かに混雑するが、利用者同士が譲り合ってうまく利用している。

問：この児童館の運営は非常にうまくいっていると思うが、三原市には児童館は1館しかない。児童館を増やす考えはないのか。

答：公共施設総合管理計画との関係もあり、今のところ増やすという考えはない。担当としては、児童館の運営を良くしていこうと考えている。また、サービスが不足している地域には「お出かけ」という形で、出張している。

問：三原市は市域が広い。自分の地域にも児童館を建設して欲しいとの要望はないのか。

答：特段の要望はない。

問：児童館の広さは、何㎡か。

答：約600㎡である。

問：地域コミュニティが活発で、本当に様々なイベントを実施しているが、事業費の中で、利用者が使えるイベント費のような予算はあるのか。

答：特にイベント費などは無い。料理をする場合などは300円程度実費を負担してもらっている。その他は、消耗品費で買える文房具程度で、ほとんど経費はかかっている。逆に、去年は大学生のスタッフが助成金を獲得してきた例があった。

問：職員体制は、「ラフraf」移転前後で、どうなっているのか。

答：移転前は4名であり、令和2年度の「ラフraf」移転時に補助員（3時間）を1名採用し、5名体制となった。また、令和4年度からファミリーサポートセンターアドバイザーを採用し、6名体制となっている。

問：児童館職員の資格要件は、どうなっているのか。

答：児童館職員は任期付採用職員であり、採用時に保育士、教育免許、社会福祉士の資格を持つ者か、児童関係の経験が2年以上ある者との要件を設けている。

問：館長はいないのか。

答：子育て支援課長が館長の扱いであるが、常駐はしていない。

問：市の職員を児童館に配属することは考えていないのか。

答：今のところ考えていない。